



月報だよりの原稿は毎月 20 日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jimou@geppou.asj.or.jp 宛。

なお、原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

## 人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目に従ってご投稿下さい。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

### 京都大学基礎物理学研究所非常勤研究員

1. 非常勤研究員・若干名
2. (1) 基礎物理学研究所  
(2) 京都市左京区
3. 理論物理学
5. (1) 2009 年 4 月 1 日  
(2) 特に問題がなければ 2011 年 3 月末日までの 2 年間
6. 2009 年 4 月 1 日現在、博士の学位を有する者又は博士の学位取得が確実な者
7. ○応募票 (HP よりダウンロード)、○履歴書、○発表論文リスト（共著者名を明記し、主要論文 3 点以内に印）、○研究歴、○研究計画、○主要論文（発表論文リストで印を付けた論文）、○意見書（1～2 通）
8. 2008 年 12 月 25 日（木）必着
9. (1) 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町  
京都大学基礎物理学研究所長 江口 徹  
e-mail: posdoc09@yukawa.kyoto-u.ac.jp  
(2) 同研究所 藤田  
Tel: 075-753-7009
10. 応募書類を電子メールで上記アドレスに送ること。意見書のみ上記送付先に郵送可能。詳細は研究所 HP の <http://www.yukawa.kyoto-u.ac.jp/contents/info/detail.php?NID=86> を参照。
11. 非常勤研究員に採用された方のうち、特に優れた 1 名が湯川奨学生 (<http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/%7EYukawa-f/>) に選ばれます。

## 人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果（前所属）
3. 着任時期

### 国立天文台 ALMA 推進室准教授

1. 2008 年 1 月（第 101 巻 1 号）
2. 水野範和（名古屋大学大学院助教）
3. 2008 年 11 月 1 日

### 国立天文台 ALMA 推進室助教

1. 2008 年 1 月（第 101 巻 1 号）
2. 澤田剛士（国立天文台野辺山宇宙電波観測所研究員）
3. 2008 年 7 月 1 日

### 名古屋大学大学院理学研究科教員

1. 2008 年 1 月（第 101 巻 1 号）
2. 金田英宏（JAXA 宇宙科学研究本部）
3. 2008 年 10 月 1 日

## 研究会・集案案内

「ガリレオ望遠鏡をあなたの手に：こどもたちにガリレオの驚きを伝えよう—簡単な望遠鏡の組み立てと観測」講習会

世界天文年にちなみ、望遠鏡を組み立てて月や天体を観察し、ガリレオの驚きと喜びを体験する講習会を企画しました。特に初等中等教育にかかわる方に参加していただき、こどもたちへの教育に反映させていただければと思っています。

日 時：2009 年 2 月 7 日（土）14:00～19:00  
場 所：横浜市港北区日吉：慶応義塾大学日吉キャンパス  
講 演：渡部 潤一 准教授（国立天文台）

解説：星座早見の作成，観測計画  
松本直紀（慶應高校）  
実習：望遠鏡を作製し月などを観測  
対象：望遠鏡での観測をしたことのない方  
後援：世界天文年 2009 日本委員会  
問合せ先：加藤万里子  
参加費：無料（望遠鏡キットや資料も無料配布）  
定員：50名  
申込締切：往復葉書で 2009 年 1 月 13 日まで。応募多数の場合は抽選（初等教育関係者を優先）。  
詳細は <http://sunrise.hc.keio.ac.jp/~mariko/galileo09> を見て下さい。

## 会務報告

### 【理事会議事録】

日時：2008 年 9 月 11 日（木）12:30~13:30  
場所：岡山理科大学第 25 号館 4 階会議室  
出席者 土佐，高田，花岡，田村，北本，堂谷，和田，中本，渡部，比田井，高羽，嶋作，福田（以上 13 名）

有効表決状提出者：柴橋（以上 1 名）  
欠席者：國枝（以上 1 名）

その他に，東條事務長と次回，次々回の年会開催責任者として小川，藤沢両氏が出席した。

議事に先立ち，定款に従い議長を土佐理事長とした。また花岡，高田両庶務理事を署名人に選出した。

### 報告

1. 前回議事録の確認  
高田庶務理事より資料 1 に基づいて前回議事録の説明がなされ，確認された。
2. 開催中の年会・その後の年会について  
中本年会理事より開催中の年会について口頭で報告が行われた。記者会見には 8 社 10 名の記者が来たこと，既に 3 件の新聞報道を確認したこと，1 日目午前中を終わった時点で登録者が 450 名であることが報告された。  
小川氏より大阪府立大学で開催予定の次回の年会の準備状況について口頭で報告が行われた。新しい建物が大学内にできたので，年会を一括で開催できる目処がたった事，懇親会等の準備も順調であることが説明された。  
また，藤沢氏より山口大学で開催予定の次々回の年会の準備状況について口頭で説明があり，講演会場の手配は問題なく進んでいる事，近隣の宿泊設備

の確保のための対策を考慮中であることが報告された。

3. 小惑星・彗星・流星に関する国際会議  
渡部教育理事より，2011 年に日本で開催を予定している小惑星・彗星・流星に関する国際会議について，その会議の内容についての説明や天文学会による共催（資金的な援助は期待しない）に関する要請が，資料 2 に基づいて行われた。要請については受け入れることで話はまとまったが，共催・後援の別など詳細については今後詰めることとなった。
4. 百周年記念事業のまとめ（月報記事について）  
天文学会創立百周年記念事業について，まとめを天文月報において会員に報告するための記事についての現状を高田庶務理事が口頭で報告した。2009 年 1 月号において昨年度行った事業のまとめとして数ページに渡る報告を載せることで話が進行中。報告の責任者は誰なのかとの質問があり，國枝・柴橋両副理事長を中心にしてとりまとめを行う方向で話を進めることとなった。また，実際に行われた事業を確認し，各担当者の案を作成するのは庶務理事の宿題となった。
5. その他

- (1) 天文学会の世界天文年の取り組み・シンポジウムについて

#### ●東アジア天文学会の協力について

海部氏より提出された資料 3 に基づき，2009 年に予定されている世界天文年に関しての東アジア天文学会の協力について，高田庶務理事が説明を行った。

現在，日中韓台の天文学会が協力して，世界天文年を記念した合同企画を開催する方向で話が急ピッチで進んでいる事，その中身としては，例えばある程度分野を限ったものとなるが，その分野で興味を持った人々が集まって行うワークショップ等が考えられていること，将来に渡ってはそれらを合同学会等に発展させていくことを視野に入れている事などが報告された。

とりあえず，天文学会としては協力をしていく事を前提に，ワーキンググループを組む形で取り組んでいくことを合意し，今後は國枝副理事長を中心として具体的な取り組みを行っていくこととした。

なお，天文学会が中心になって合同学会を開催するというのはすぐには難しいので，その為の組織作り等，万全な体制で臨むべきであるとの意見が多く出された。

## 議 題

## 1. 新入会員の承認

高田庶務理事より資料4に基づいて新規加入者等の承認について説明が行われ、承認された。また、退会者等についても報告が行われた。

## 2. 本年度末100年史編纂委員会の解散と内規抹消

高田庶務理事より、口頭で本年度末において100年史編纂委員会を解散する方向で話を進めたい旨説明が行われ、了承された。またそれに伴って内規の抹消の手続きが必要であることが確認され、了承された。

なお、評議員会において内規の抹消については決議される。

## 3. 天文用語集の改訂について

高田庶務理事より、資料5に基づいて、天文学用語集の改訂について説明が行われた。これは、前回の評議員会で家氏より提案があった、天文学用語集の改訂について、理事会において議論をして方向性を考えることが要請されていることに対応しての事である。

意見としては、天文教育等へのメリットなど、現在指摘されているものとは異なるメリットが感じられる必要があるのではないか、資金としては科研費とかでカバーできるような体制にできないのか、方法としては百周年記念出版のindexを用いて行うことでやれないのかなど、様々な意見が出された。また一番の問題は誰を中心として行うのかということであり、事務局をちゃんと立ち上げ、原稿の取り立てなど、かなりしっかりした体制で臨む必要があるとの認識で一致した。前向きな方向での検討を行うことは良いが、まだ問題点が多いので継続審議とし、次期の理事に引き継ぐことで合意した。

## 4. その他

## (1) 指定管理者制度に関する共同声明

天文教育普及研究会の松村氏より提出された資料6に基づいて、高田庶務理事が指定管理者制度に関する共同声明について説明を行った。天文教育普及研究会や日本公開天文台協会などが連名で行政機関に対して提出する指定管理者制度に関する共同声明に対して、日本天文学会も連名で参加することを要請している内容であること、過去の理事会や評議員会において指摘された箇所を修正して、かなり分かり易くなっていること、制度そのものは問わず、むしろ継続性と専門性の維持を訴える内容になっていることなどが説明された。

声明そのものは有効なものにはなるであろう

との認識で一致し、連名者として加わることは了承された。なお、付随コメントとして、せっかく提出したものが真面目に読まれないのは良くないので、マスコミ等を用いて積極的に声明の宣伝をするべきであることを松村氏に伝えることで合意した。

## (2) 民間の助成や受賞に対しての学会からの推薦

高田庶務理事より、民間の助成や受賞に対しての学会からの推薦についての現状について配付資料によって説明が行われた。特に最近10年くらい受賞がないこと、推薦の仕方についてもっと積極的に行うべきであるとの意見を古在氏よりいただいている事などが紹介された。また、物理学会等の他学会でどのように取り組んでいるかについても補足説明が行われた。

意見として、林賞、若手賞などで推薦されたものを見繕って推薦するだけでも現状よりは積極的に推薦できるはずであり、まずは、大がかりな組織作りなどをしなくても良いのかとの意見が出された。

この件については継続審議として次期の理事へ引き継ぐこととなった。

次回は1月10日(土)を予定。時間・場所は未定。

2008年10月3日

議長 土佐 誠 ㊟  
署名人 花岡庸一郎 ㊟  
署名人 高田 唯史 ㊟

## 【評議員会議事録】

日 時：2008年9月12日(金) 12:30~13:30

場 所：岡山理科大25号館4階会議室

出席者：井上、岡村、海部、郷田、柴田、中川、宮川、渡部、坂田、佐藤、谷口、筒井、観山、望月、山田(以上15名)

有効表決状提出者：永田、池内、杉山(以上3名)

欠席者：家、須藤(以上2名)

他に理事会より、土佐理事長、花岡、高田、北本、田村、中本各理事と東條事務長が出席した。

議事に先立ち、議長に観山氏、署名人として岡村、柴田氏が推薦され了承された。

## 報 告

## 1. 前回議事録の確認

高田理事より前回の議事録について資料1に基づいて説明が行われ、確認された。

2. 開催中の年会・今後の年会について

中本理事より開催中の年会について口頭で報告が行われた。2日目正午現在で登録者数は約740人、講演数は670件。記者会見には8社・10名が訪れ、報道は全国紙を含めた4紙において確認されたほか、地元のテレビ・ラジオでも紹介されたことが報告された。

3. 宇宙基本法下の宇宙科学について

井上氏より配付資料に基づいて、宇宙基本法下の宇宙科学についてということで、宇宙基本法の内容と、それに対応して今後、宇宙科学を遂行する上でのように進むべきかの骨組みについて説明が行われた。8月27日施行で内閣総理大臣中心の戦略本部が設置され、これから1年で事務を内閣府に行わせるための法整備等が行われる。

JAXA等に大きな見直しがかかることもあり得るとのこと。自民党宇宙特別委員会宇宙科学政策小委員会の中間報告におけるまとめの紹介も行われた。

大学とのつながりの明確な位置づけ、組織についての見直しの部分は大変重要であり注意して動向を見極める必要ありとの認識で一致した。

多くの懸念などが示されたが、ボトムアップと大学との共同は死守するべきものであろうとの意見で一致し、その点をアピールすることが必要であり、天文学会などの関連分野が声を上げるべきものであるとの意見が出され、理事長を中心としてアピールの原案を至急作成し、評議員にも回覧して、今後の組織改革に対する要望書を提出することで合意した。

4. 天文学会の世界天文年の取り組み他

海部氏より資料2に基づいて天文学会の世界天文年への取り組みについての現状と提案が行われた。

(1) シンポジウムについて

現在、日中韓台の天文学会が協力して、世界天文年を記念した合同企画を開催する方向で話が急ピッチで進んでいる事、その中身としては、例えばある程度分野を限ったものとなるが、その分野で興味を持った人々が集まって行うシンポジウム等が考えられていること、将来に渡ってはそれらを合同学会等に発展させていくことを視野に入れている事などが報告された。

とりあえず、天文学会としては協力をしていく事を前提に、ワーキンググループを組む形で取り組んでいくことを合意し、今後は國枝副理事長を中心として具体的な取り組みを行っていくこととした。

(2) 東アジア天文学会の協力について

世界天文年をきっかけにして東アジアの天文

学会間の協力体制を確立していく希望を持っているが、世界天文年に関する研究者の参加が日本は少ないとの指摘が行われ、もっと積極的に取り組んでいくためにも、天文学会としての世界天文年担当を決めてもらいたい旨、提案された。

これについては土佐理事長より、前日の理事会での議論の紹介があり、学会間の協力等については、今後國枝氏を中心に検討を行い、少し長いスパンについて考えることを想定していること、また、将来的に合同で年会を行うためにはどういった対応が必要かを考えていく方針である旨紹介された。

(3) 中国の新しい雑誌の作成について

中国において新しい天文学の学術雑誌が刊行されることになり、Call for paper がまもなく出ること、日本の代表的なプロジェクトについてレビュー的なものをせよと検討しており、関係者に声をかける予定であることが紹介された。

日本としてはしばらく様子を見守りながら状況を判断するとし、何らかの意見交換を適宜行う必要があるとの見解が示された。

5. その他

(1) 百周年記念事業のまとめ（月報記事について）

高田理事より口頭で学会創立百周年を記念して行った事業について、会員に対する報告を2009年1月号において行うために、現在原稿をまとめる準備をしていることが報告された。

(2) 本年度末での100年史編纂委員会の解散と内規抹消

高田理事より口頭で、本年度末において100年史編纂委員会を解散することが理事会で承認されたこと、また、委員会の内規の抹消については次回の評議員会で決議する予定であることが報告された。

(3) 小惑星・彗星・流星に関する国際会議

渡部氏より2011年日本開催予定である小惑星・彗星・流星に関する国際会議について、天文学会との共催を理事会に提案して承認されたことが紹介された。

(4) 百周年記念出版事業の現状について

岡村氏より配付資料に基づいて百周年記念出版事業の現状について報告が行われた。まだ配本の予定が立っていないものがあり、今後も原稿の回収を続けていく旨、報告された。

## 議 題

## 1. 指定管理者制度に関する共同声明

天文教育普及研究会の松村氏より提出された資料3に基づいて、高田理事が指定管理者制度に関する共同声明について説明を行った。

天文教育普及研究会や日本公開天文台協会などが連名で行政機関に対して提出する指定管理者制度に関する共同声明に対して、日本天文学会も連名で参加することを要請している内容であること、過去の理事会や評議員会において指摘された箇所を修正して、かなり分かり易くなっていること、制度そのものは問わず、むしろ継続性と専門性の維持を訴える内容になっていることなどが説明された。また、補足説明として、この声明をまとめるにあたって天文教育委員会の野田氏が学会を代表して関与をしながら進めて来たことが報告された。

内容については問題なく了承され、天文学会も連名で共同声明を出すこととした。

次回は1月24日(土) 時間・場所は未定。

2008年10月1日

議 長 観山 正見 ㊟

署名人 岡村 定矩 ㊟

署名人 柴田 一成 ㊟

## 【2008年度秋季総会議事録】

日 時：2008年9月12日(金) 16:00~17:10

場 所：岡山理科大学・理大ホール

議事に先立ち出席者の確認が行われた。会場参加は169名、出席者のうちで事前投票をしたものは、事前投票の方を無効とした。有効出席者総数は532名で、定足数(正会員総数1,696名の5分の1=340名)を満たしていることを確認した。

定款に従い議長は土佐理事長がつとめ、次に署名人として吉田道利氏、金光 理氏が選出された。

## 議事の経過および結果

1. 高田理事が資料1に基づき新役員(理事・監事)の選任について説明を行った(第1号議案)後、質疑応答が行われた。
2. 高田理事が資料2に基づき選挙管理委員の承認について説明を行った(第2号議案)後、質疑応答が行われた。
3. 高田理事が資料3に基づき2009年度事業計画案の説明を行った(第3号議案)後、質疑応答が行われた。
4. 田村理事が資料4に基づき2009年度収支予算案

の説明を行った(第4号議案)後、質疑応答が行われた。

5. 第1号議案、第2号議案、第3号議案、第4号議案は各々賛成多数で承認された。

## 報告事項等

1. 高田理事が資料5に基づいて2009~2010年度の各委員会委員について説明を行った。委員の中に準会員が含まれていることについての理由を問う質問があり、前委員会より他に代え難い方なので認めた旨、回答された。
2. 洞口俊博氏が学会創立百周年・世界天文年を記念して天文学会が共催する巡回展について説明を行った。2009年5月から東京、仙台、名古屋、大阪を巡回すること、展示の内容や準備状況について説明された。
3. 海部宣男氏より日本学術会議に関連した最近の活動について報告が行われた。10月1日でメンバーの改選が行われたこと、その任期は6年であること、現在も天文学に深い関わりを持つ事項が多く議論されていること、今後の活動の方向性などについて説明が行われた。
4. 井上一氏より、今年制定された宇宙基本法の下での宇宙科学について、現状の議論の流れの説明と、今後天文学会としてどのようにこの件に関わっていくべきかを考える必要性についての提起が行われた。宇宙科学を推進していく立場から、天文学会として訴えるべき事について至急議論し、行政や社会に向けてアピールを出すことを、理事会が中心になって行うこともあわせて報告された。

2008年10月3日

議 長 土佐 誠 ㊟

署名人 吉田 道利 ㊟

署名人 金光 理 ㊟

## 日本天文学会 2008年秋季年会報告

2008年秋季年会は、9月11日(木)から13日(土)の3日間、岡山理科大学(岡山県・岡山市)にて8講演会場と5ポスター会場を使って開催された。講演数は口頭発表のみの講演が418件、ポスター発表講演が252件であり、合計で670件であった。参加者数は842名あった。また、次の特別セッションが開かれた。

「特別セッション・教育フォーラム：世界天文年」

世話人：海部宣男(世界天文年日本委員会委員長)、

渡部潤一(同企画委員長・天文教育委員長)、

小野智子(同事務局)

座長は次の48名の方々に務めていただいた。ここにお名前を示し、感謝の意を表する(敬称略)。

	9月11日(木)		9月12日(金)		9月13日(土)	
	10:30-12:30	14:30-17:00	9:30-11:30	13:30-15:30	9:30-11:30	13:30-15:30
A	土居明広 (ISAS/JAXA)	中西康一郎 (国立天文台)	伊藤洋一 (神戸大)	長沢真樹子 (東京工業大)	中村文隆 (新潟大)	梅本智文 (国立天文台)
B	南谷哲宏 (北海道大)	釜谷秀幸 (防衛大)	徂徠和夫 (北海道大)	千葉柁司 (東北大)	梅村雅之 (筑波大)	中西裕之 (鹿児島大)
C	矢治健太郎 (立教大)	嶺重 慎 (京大)	吉田道利 (国立天文台)	橋本 修 (ぐんま天文台)	山下卓也 (広島大)	山岡 均 (九州大)
D	戸谷友則 (京大)	井上開輝 (近畿大)	大山陽一 (台湾中央研究院)	村山 卓 (東北大)	石田 学 (ISAS/JAXA)	粟木久光 (愛媛大)
E	青木 勉 (東京大)	岩田 生 (国立天文台)	輪島清昭 (山口大)	坪井昌人 (ISAS/JAXA)	蜂巢 泉 (東京大)	石丸友里 (国際基督教大)
F	松下恭子 (東京理科大)	林田 清 (大阪大)	石崎欣尚 (首都大学東京)	松原英雄 (ISAS/JAXA)	川田光伸 (名古屋大)	中川貴雄 (ISAS/JAXA)
G	比田井昌英 (東海大)	定金晃三 (大阪教育大)	磯部洋明 (京大)	浅井 歩 (国立天文台)	渡邊鉄哉 (国立天文台)	秋岡真樹 (情報通信研究機構)
H	犬塚修一郎 (京大)	井岡邦仁 (KEK)	堂谷忠靖 (ISAS/JAXA)	幸村孝由 (工学院大)	大須賀 健 (国立天文台)	浅野勝晃 (東京工業大)

〈記者会見〉

秋季年会の前日、9月10日(水)14:00から岡山理科大学・11号館8階ラウンジにて行われた。土佐 誠理事長の挨拶のあと、各講演者から以下のトピックスについて解説が行われた。報道機関8社の出席があった。これらの内容は、9月末日までに確認できたもので全国紙4紙に4件の記事として掲載され、岡山地方のテレビ・ラジオニュースでも放映された。その他、地方紙やインターネットにも多数掲載された。

●研究発表

(1) 宇宙にはどれほど冷たい星があるのか?—撰氏

280度の星を含む多数の低褐色矮星の発見—

記者会見出席者:

石井未来(国立天文台), 田村元秀(国立天文台)  
関連する講演番号: N13a, N14b

(2) 新しい系外惑星の世界が見えてきた—巨星を回る惑星を多数発見—

記者会見出席者:

佐藤文衛(東京工業大学)  
関連する講演番号: A30a

(3) 鉄を助ける脇役元素の合成を宇宙で確認

記者会見出席者:

玉川 徹(理化学研究所), 古澤彰浩(名古屋大学),  
早藤麻美(東京理科大学)  
関連する講演番号: B11a, Q36a, K02a

〈特別セッション・天文教育フォーラム〉

世界天文年を来年に控え、年会第1日午後5時~6時に世界天文年2009日本委員会と教育フォーラムの共催で開催された。司会は渡部潤一(日本委員会企画委員長)、参加者は約180名。基調報告「世界天文年とは」(海部)ではIAUのグローバル・イベントの紹介に続き、日本独特の広範な天文教育・普及組織の協力による日本委員会と企画委員会の活動状況、企業・一般からの寄付の公式スタートが報告され、今後重要なのは研究者の、個人や研究室としての参加であることが強調された。個別の計画では、○アジア星神話伝説プロジェクト(アジア共同企画:海部), ○日本天文学会100周年・世界天文年2009巡回企画展(洞口), ○「君もガリレオ」プロジェクト(縣), ○1,000万人の観望会(日本公開天文台協議会), ○「プラネタリウムへ行こう」プロジェクト(日本プラネタリウム協会), ○ガリレオ望遠鏡復元プロジェクト(井上), ○天文教育シンポジウム2009(天文教育普及研究会), ○皆既日食関連事業(渡部), ○広報関連事業(星空ブックフェア, ガリレオくんと仲間たち, プレシンポ:渡部)等が紹介された。議論ではアイデアや意見が活発に交換され、世界天文年は個人・グループの自発的活動の集積で、自主的な活動こそ重要であること、研究者や大学の多様な参加が望まれることが、再度強調された。詳しくは世界天文年2009日本委員会ホームページを参照されたい。(世話人代表 海部宣男)

## 〈公開講演会〉

一般向けの公開講演会は「岡山からの天文学の来し方・行く末」をテーマに、14日(日)13時より岡山大学理大ホールで開催した。土佐 誠理事長の挨拶の後、まずは地元の田邊健茲氏(岡山理科大学)の講演「天体発見の歴史と岡山のアマチュア観測家」という題で、欧米の観測の歴史から、本田 実氏をはじめとする岡山のアマチュア天文家の活躍とプロの連携について語っていただいた。さらに、嶺重 慎氏(京都大学)の講演「ブラックホールを見る」では、ブラックホールとその周辺の現象について、易しい解説が好評であった。続いて、杉山 直氏(名古屋大学)の講演「宇宙の始まりを見る」では、ビッグバン宇宙論の観測的な実証と、謎に満ちたダークマターおよびエネルギーについて、小道具も使いながらのユニークな話であった。講演に対する質疑応答もそれぞれ活発で、時間が足りないほどで、全体にたいへん好評であった。今回の入場者数は109名であった。

(教育理事 渡部潤一)

## 〈通常総会〉

「通常総会報告」(783頁)を参照。

## 〈林 忠四郎賞受賞記念講演〉

年会2日目の総会后、同じ会場で17:15から約30分にわたり、2007年度林 忠四郎賞受賞者の嶺重 慎京都大学教授に受賞記念講演をしていただいた。短い時間ではあったがご自身の研究内容について手際よく紹介された。いつものように会場は若い大学院生や研究者であふれ、先輩の優れた研究内容や研究者としての足跡を知り、自分たちの今後の参考にしたいという熱気が感じられた。

## 〈懇親会〉

岡山ロイヤルホテルで、9月12日(金)18:30から2時間にわたって行われた。事前のメールによる申込み205名に加え、年会受付での申込みを合計し265名の参加があった。土佐理事長からの挨拶に続き、岡山理科大学の田邊教授による歓迎の挨拶、岡山理科大学波田学長の挨拶のあと、海部宣男先生に乾杯の音頭を取っていただいた。和洋中折衷の料理を、地元の酒蔵から寄付をいただいた吟醸酒をはじめ各種飲み物類で味わい、閉会の挨拶のあとにもぎやかに懇談が続いていた。

(開催地理事 福田尚也)

## 〈保育室〉

保育室は岡山理科大学の第25号館8階、理大ホー

ル控室1を使用した。8家族、子供10名の利用があった。保育者の派遣は株式会社マイスタイルに依頼し、年会実行委員会側は保育室担当が対応した。準備にあたり岡山理科大学の福田尚也氏ならびに同学生スタッフの方々にご協力いただいたことを感謝する。

(保育室担当 泉浦秀行, 岡 朋治)

## 〈企画セッション報告〉

## 『中小口径望遠鏡による天文学』

中小口径望遠鏡による天文学を焦点にすえた内容の企画セッションを、学会初日午後から最終日まで、延べ10時間弱にわたって開催した。通常のセッションでいうと、天文教育、太陽、恒星、星・惑星形成、高密度星、超新星爆発、地上観測装置など多岐にわたる分野を含むもので、日頃、学会では顔を合わせないような分野の講演者が一堂に集まる、年会の中でも珍しいセッションとなった。どの時間帯も100~130名という出席者を集めて盛況であり、全部で45件の口頭発表、23件のポスター発表がなされた。

プログラムは、以下の四つの項目を軸に構成した。

1. 中小口径望遠鏡で拓くサイエンス(突発天体観測や惑星系探査など)、
2. 中小口径望遠鏡を支える新技術(起動性を高める技術、新観測装置)、
3. 中小口径望遠鏡の大学・国際連携(大学間や海外機関との連携)、
4. 小口径望遠鏡観測を通して行う地域連携(地元愛好家との連携)。招待講演では、国内の光赤外中小口径望遠鏡を有する天文台や、計画中のものについて、運用方針、地域・大学連携、推進するサイエンスについて話していただき、若干の議論の時間をとった。一般講演では、プロジェクト専用の望遠鏡や学校での活動も含め、さまざまな話題の講演がなされた。特に、アマチュアによる観測が最も盛んな地域の一つである岡山で年会が開催されることを踏まえ、最終日には地元アマチュアとの交流と連携を目的のサブセッションを開催した。

(世話人代表 嶺重 慎)

## 『すざくで探る高エネルギー宇宙』

「すざく」衛星の打ち上げから3年経過し、観測装置の較正も進み、その高い性能を十分に引き出した成果が数多く発表されています。これらの成果を天文学コミュニティ全体で共有し、最新の高エネルギー宇宙に対する理解を深め、発展させることを目的に本セッションを企画しました。

セッションは、Galactic Compact, Galactic Diffuse, Extragalactic Compact, Extragalactic Diffuseの4つのカテゴリーから構成され、全体で8つの基調講演と15の一般講演、ならびに7つのポスター発表がありまし

た。開催中、150名の参加者を得るほど盛況で、各講演に対し活発な議論が行われ、「すざく」への高い関心が現れたものとなりました。発表者の皆様、セッションに参加して下さった皆様に心から感謝いたします。

「すざく」はPASJ特集号第3集に向けて多数の成果が出ております。今後も、「すざく」チームとして企画セッションを開催できるようにしたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

(世話人代表 栗木久光)

#### 〈ジュニアセッション〉

秋の年会なので、ジュニアセッションとしてはポスター発表のみを募集した。発表は地元の高校生による発表の1件のみであったが、小惑星の分光測光観測についての研究で高いレベルの内容であった。発表者の高校生たちは年会の会場に参加し、ポスター会場で説明を行った。研究者との議論が活発になされたようで、発表者にとっても有意義だったと思われる。ご協力をいただいた年会開催地理事の福田直也氏に感謝したい。(ジュニアセッション実行委員長 吉川 真)

(年会実行委員長: 中本泰史)

### その他

#### IAU (国際天文学連合) の新規会員希望登録について

日本学術会議天文学・宇宙物理学分科会  
委員長 海部宣男  
2008年10月14日

2009年8月にブラジル・リオデジャネイロで開催される第XXVII回IAU総会で、新しいIAU会員(メンバー)が承認されます。新会員になることを希望される方は、以下のとおりウェブにて申請をお願いします。会員の方々は周囲にこのことを周知し、推薦すべき研究者をご存知の方はご本人に連絡し申請を奨励してください。

申請期限: 2008年12月15日

申請先: <http://www-utap.phys.s.u-tokyo.ac.jp/~iau/mem/index.php>

申請の基準: 「天文学・宇宙物理学または関連分野において博士号を取得し、かつその後2~3年以上研究者としての活動歴があること」

申請法: 上記申請URLは本人記入が原則です。

記入項目: 候補者の氏名、生年月日、国籍、住所、電子メールアドレス、博士号取得年、取得大学、博士論文の題目、現在の勤務場所と職名(ポジション)、所属を希望するIAUのDivision(s) and/or Commission(s)。上記URLのフォームに従って記入。

(注1) IAU分科会は上記「申請の基準」の基準に照らして審査を行い、推薦候補者リストを2月中旬にIAUに提出します。基準に満たないと結論された候補者は推薦されません。

(注2) 現IAU会員の確認、また基準等の詳細は、IAUホームページのサイトマップから、[Administration](#) → [IAU Membership](#) → [Individual Members](#), またさらに → [Qualification & Application Procedure](#) で参照できます。

### 編集委員会より

#### 2009年天文月報表紙デザイン案決定!

それぞれたいへんレベルの高い応募作品5件の中から、編集委員会での選考の結果、中村有紀さん(相模原市)のデザインを採用させていただくことになりました。2009年1月号からの表紙をお楽しみください。  
和田桂一(天文月報編集長)

#### 訃報

会員の清水 実氏が去る2008年10月20日逝去されました(享年80歳)。謹んでご冥福をお祈りするとともに会員諸氏にお知らせ致します。

和田桂一(編集長), 浅井 歩, 今西昌俊, 衣笠健三, 齋藤正雄, 寺田幸功, 戸谷友則, 三好 真, 矢野太平, 吉田直紀  
平成20年11月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会  
印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-8 株式会社 国際文献印刷社  
定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会  
Tel: 0422-31-1359 (事務所) / 0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595  
日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)

©社団法人日本天文学会 2008年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)